

• 会報第3号の発行によせて •

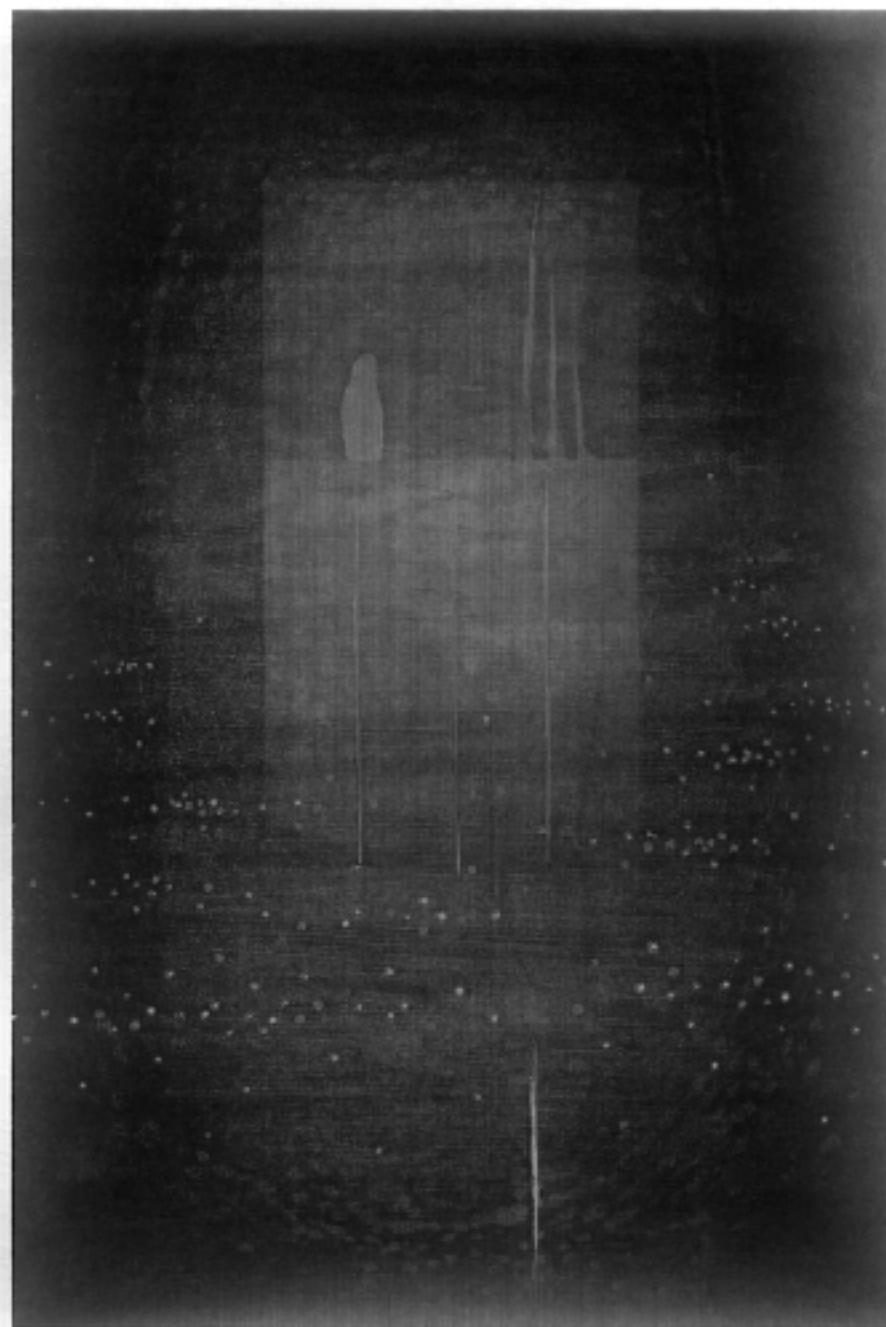
ようやく厳しい寒さがやわらぎ、春の訪れを感じる季節となってまいりました。

今回の会報は、作品を作るという事を通して、様々な形で国際交流を行った作家の方々にその体験談を寄せて頂きました。

交流の形はそれですが、とても興味深い内容となっています。是非じっくりと読んでください。

Kondo Miyuki

近藤 幸



ふが
「浮華に咲く」
90cm×60cm 木版
2004年制作

Contents

■会報第3号の発行によせて

■作家紹介 近藤幸さん

■長沢アートパーク アーティスト・イン・レジデンス
～汾陽 佐和子～

■文化庁特別派遣芸術家在外研修員報告②
～齋藤 修～

■「絵を描くのはなぜ」 ～田中 玉美～

■男同士の夜語りもなかなか捨てがたいものですね…
～角間 貴生～

■掲示板

■編集後記



作家紹介

Kondo Miyuki

近藤 幸さん

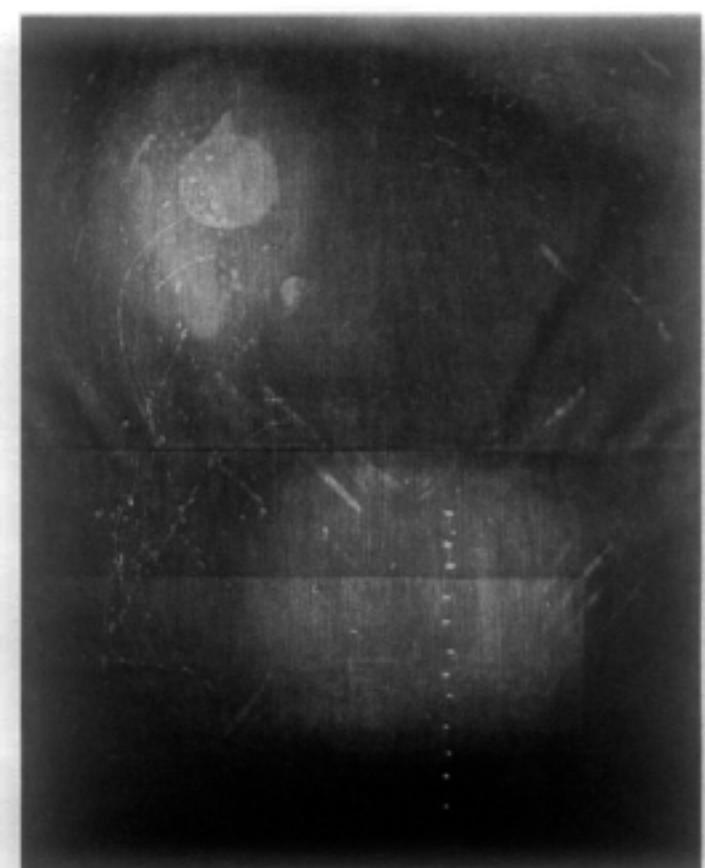
「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は近藤幸さんです。
近藤さんは昨今、様々な公募展や個展で作品発表され、注目を集めておられます。深い藍色の中に浮かび上がる幻想的な風景のイメージの原点を語って頂きました。

<Q1>ご自身の作品について

<Q2>作品を作る上で、一番大事にされている所はどんな所ですか？

<Q3>グループ(団体)に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？

<Q4>今後の作家活動について何か一言



「暁 ~Cross Over~」
120cm×90cm 木版
2001年制作

<A1>

一夜の風景一

「忙しい」と感じる日常から解放される瞬間、山に囲まれた狭い夜空に、手が届きそうな満天の星が輝いている。自分の力ではどうすることもできない現実に打ちひしがれた帰り道、おごりや虚しさを切り裂くように、低い三日月が細く突き出している。充実した一日を終えて背伸びをすれば、雲の隙間から月明かりが空を彩っている。

夜の闇に包まれるとき、月や星や街の小さな灯りたちによって、本当に大切なものが見えてくる。今、自分が生きているということ。どんな今日も意味があるということ。

人との関わりの中で生まれる様々な感情と場所が絡み合うことで、風景は特別なものとなる。

<A2>

風景との出会い。見なれている風景の中にも心に留るものがある。旅先でも、旅の途中でもそれには出会うことがある。その風景が自分の心の中の何に響いているのか考え、向き合っていくこと。そして風景を通して見えてきた思いを昇華し、普遍化させていくことが大事だと思う。

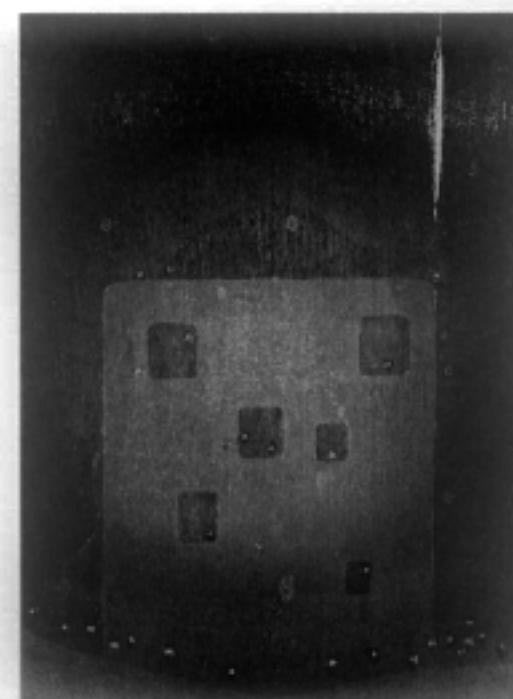
<A3>

大きな会場での展示はとても勉強になっていると思う。他の作品と並ぶと自分の甘さや弱さがはっきり出てしまうので、緊張感を持って制作できる。また、公募展に出品し、たくさんの作家の方からご指導頂けたり、励まされることで努力し続けることができている。

地方で制作していると作家同士で話をする機会がないので、グループに所属することは刺激にもなるので、できる限り参加していきたい。

<A4>

昨年は、展覧会や個展などが絶え間なく続き、先のことを考えると不安になる日もありましたが、逆に追われる中で作り続けられたことが自信になりました。これからも「作り続けること」で自分の世界を追求していきたいと思います。



「夜ふかし」
30cm×22.5cm 木版
2003年制作

プロフィール

1961年 徳島県生まれ
1984年 徳島大学教育学部美術教育課程卒業
2001年 鳴門教育大学大学院芸術系(美術)課程修了(版画研究室)

主な活動

1999年 徳島県美術展 絵画部門 奨励賞
2001年 第7回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
個展 ギャラリー花杏豆(徳島)
第69回 日本版画協会展
第75回 国画会展
ふくみつ棟方記念版画大賞展
KYOTO版画2001
2002年 第8回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展
関西国展 「新人賞」
第70回 日本版画協会展
第76回 国画会展
第2回山本鼎版画大賞展
2003年 第71回 日本版画協会展 「奨励賞」
第77回 国画会展 「新人賞」
関西国展 「関西国画会賞」
個展 ギャラリーマロニエ(京都)
KYOTO版画2002 「美術文化振興協会賞」
個展 Wake Upギャラリー(徳島)
2004年 第10回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展

長沢アートパーク アーティスト・イン・レジデンス

汾陽 佐和子

淡路島にある津名町長沢は棚田のある美しい農村です。1997年から長沢アートパークを開所し、アーティスト・イン・レジデンス事業を開始しました。毎年世界のアーティスト達が集まり2ヶ月間、共同生活をしながら水性多色木版画の研修に励むものです。オープンスタジオや町民と交流する機会もあり、淡路の文化を体感し、地元の人との交流からイメージを作品に反映させていきます。私は黒崎先生に推薦して頂き参加しました。

スタジオでは朝9時から夕方5時まで月～土と仕事をしました。スコットランドとマレーシアから男性の作家2人と、ドイツ、カナダ、韓国から女性作家3人が参加しました。私は3人の女性とスタジオより町にある一建屋で共同生活をしました。30代がほとんどで私と同世代で夜遅くまで、絵画についてやお互いのプライベートな事に至るまで話しをしました。夕食と一緒に作りました。魚が苦手な人がいたので、週に2回町のスーパーに買い出しに行きましたがなんとなく遠慮してわかめや魚なしのメニューが続き少々つらかったです。今回はじめてイスラム教徒の方に会い、肉が食べられないそうで珍しかったです。断食もされました。ドイツ出身のエバさんの誕生パーティーがあった時は一品ずつ作ったのですが、食のオリンピックのようで楽しかったです。今回参加した全員供、いい人達で、家族のようでした。滞在中の思い出はあまりにありすぎて書き切れません。スタジオの昼休みには皆と隣の全生徒11人という小学校で子供達とドッヂボールをしていました。これがきっかけかもしれません、スコットランドの作家が淡路の小学校の先生と結婚した事も一番の思い出です。長沢の自然があまりにも美しくドラマチックにしたのかも…。又スタジオが閉まる前には朝9時から夜9時まで、エバさんと居残りしたのも懐かしいです。

それぞれにバックボーンの異なる国で作家活動をしている者が木版画に魅かれ、同時期に交流できた事は、まるで留学しているかのように密度の濃い時間でした。外国の作家のモチーフのとらえ方、色使いから刺激され、固くなりかけた頭をリフレッシュしてくれました。また木版画に対する情熱や、日本に対する関心の深さに驚かされました。日本の神社の飾りについてや家庭ののれんについて、宮司さんの身についている帽子について質問をうけ困りましたが、日本の文化について考えさせられました。毎日英語のシャワーをあげて英語の修得にはありがたい日々でした。

木版画の基本を指導して頂き、微妙な紙の湿など大変勉強になりました。別世界のような時をすごした2ヶ月は強烈に印象に残っていて、気持ちが作品に現れています。これから作品を作る時はただ漫然と作るのではいけないと実感しました。短期間ではありますが、一緒にすごした海外の友を得て、これからも友情を続けていきたいし情報交換していきたいです。



文化庁特別派遣芸術家 在外研修員報告②

齋藤 修

アトリエ コントラポアンは、一版多色刷り銅版画のテクニク創始者、W.ヘイターの開設した（アトリエ17）の方針を彼の生前の意思によりエクトールソニエ、ホアンの両名に後を託した唯一の一版多色刷り銅版の工房です。彼の死後、遺族が彼の生前の意思を尊重しアトリエの諸設備を両名に譲りアトリエの存続を許しました。但し新たなアトリエ名を付けることになり両名は、ヘイターの平面に於ける3次元の意識と対（音楽用語）の哲学意識を加味しアトリエ コントラポアンと改名し現在に至っています。

研修先のアトリエはモンバルナスから歩いて15分、最寄の地下鉄の駅より5分から10分でできます。公営アパートに付属したアトリエの三つの内一つです。二つのアトリエは、市民サービス用の絵画、彫刻、工芸のアトリエです。近所には、美術史に名前のある作家が使用していたアトリエ等があり又銅版画の刷り師の工房があります。小生は毎月刷り師の工房を外から覗くのを楽しみにしながらアトリエに通いました。

アトリエでは、最初にヘイターの制作哲学のレクチャーを受けその哲学にのっとった体験制作をジングル版で制作を行いました。

まず版の上にソフトグランドをローラーで万遍無くのせます。この面上に三次元を意識しながらフリーハンドで何本か曲線（上下、前後左右を意識しながら）をひきます。その後、松脂樹脂をアルコールで溶かした液で版面を十文字に筆書きで四分割します。樹脂が乾いた後塩酸液に一時間浸し腐食します。腐食している間に銅版画の技法のひとつであるエンゲレービング技法の実習をこれもヘイターメソッドにのっとった制作を体験します。

一回目の腐食が終わり版面の樹脂、ソフトグランドを拭き取りインクキングして一度目の刷りを行います。

これがこれから続けてゆく版制作の基礎となるわけです。腐食を繰り返すごとにプリントを行い次の表現の参考にします。この後、版面にソフトグランドをひいてテクスチャー（布、レース、ネット等を使って）や不定形のパターンを腐食することを10～12回くらい繰り返し版面制作します。最終の仕事は、版面を2つの不定形を描きこれを黒ワニスで塗りつぶしディープエッチングします。この腐食は6-7時間腐食液に浸け置きました。これで版制作が終わりました。次にアシスタントに手伝ってもらって黒とオレンジ、黒とブルーの二種類のプリントをします。この後、ディレクターによる多色刷りを刷ってもらいます。これで体験制作が終わります。

一版多色刷りのインキングは、使用するインクの粘度の違いで行われます。最初に固めのインクを、腐食された処に詰め凸部のインクを拭き取り、次にのせるインクにリンシードオイルを混ぜてマヨネーズ状にして

ローラーでのばしインキングします。この時インキングしたくない場所にはマスキングをしたり版面上の形を切り抜いた紙をずらして版面上に置いてローラーでインキングします。使用するローラーの円周は版面を一度にインキングできるサイズのものを使用します。またハードとソフトのローラーを使い分けてインキングします。ローラーワークですのでローラー写しの技法もつかえます。

ディレクターの色インクの使い方は純色使用が基本でした。美しい色彩の重なりでカラーバリエーションを増やす方法です。3～4回のローラーワークでカラーワークを見せてくれました。

絵を描くのは何故

田中 玉実

「この時期、世界一平和な街じゃないの」とばかり、ほぼ4年振りにパリを訪れたのは、3月末、シラク大統領が大反対するイラク戦争の真最中。思いがけず夏日のような陽光に溢れたこの美しい街で、その一件は起った。

遊びにきたわけではない。パリ時代4年間通った版画のアトリエが、25周年記念展をするのに、出品を誘われたのだ。一ヶ月前に作品は送ったはずだった。が、パリに乗り込んだ展覧会オープニング前日、まだギャラリーに作品は届いていなかったのである。

何が、どこで、どうなったの? 郵便局で調べてもらうと、まだパリの空港で留まっていると言う。作品は商品と見なされ、関税がかかり、商品に見合った税金を払わなければ配達されないと。いうのだ。

どこの国でも、お役所仕事は融通がきかない。特に外国人相手では…。自分の作品に格安の値段を付け、証明書をでっちあげ、明日から展覧会が始まるので、税金は払うから明日中に配達してくれ、と友人知人の手を借り、電話とファックスで何度もやりとりして、やっとの思いで手配を終えた。でも、なにせここはフランス、本当に明日届くのか、疑心暗鬼である。

すべての発端は、日本から送るとき、贈り物の所に×印を付けなかったのが間違いだった、と気づいたが、後の祭。まったく、パリに着いた当日に、こんな一大難事業が待ち受けているなんて…。

さて翌日、オープニングパーティは午後6時からである。パリの仲間たちの作品は、全て前日に飾り終えている。ハラハラ、ドキドキ、神様お願い!

と、昼頃、ギャラリーのオーナー・ミッシェルよりホテルに電話あり、「作品は無事着いたよ」。「よかったー!」

パリ9区、にぎやかにテーブルが外にはみ出したカフェやレストラン、路向こうには立派なアパルトマンが建ち並ぶ。なかなか素敵な地区にギャラリーはあった。

「まあ、こんな所に…」ガラス張りのギャラリーから、バーと私の作品が目に飛び込んできた。まるで廣告塔のように…。本当にいい場所を私の作品のために確保しておいてくれたんだ、と感謝感激。

ドアを開けると、「タマミー!」と、フランソワーズの大きな声が響く。オフェリア、ディナ、ミレイユ、フランシス、…懐かしい面々とアンバラス(両頬にキス)。この4年、いつかこんな場面がきてほしい、と思い描いていたっけ。でもでも、エーイじれったい、浮き立つ気持ちを思うようにフランス語で伝えられない。

6時過ぎ、日本人の友人たちが次々と駆けつけてくれた。福岡県人会の仲間たち。ガイドの宮永さん、新聞社の山崎さん、…などなど、パリに長く住む人たちは、本当に自由闊達である。ワイン片手に、尽きないおしゃべりと笑い。永遠に青春である。版画をしていて本当によかった。

古い出会いと、新しい出会い。人と出会い、自分と出会う。案外、絵を描き続ける理由は、この幸福な瞬間を味わうためかもしれない。

昨日どしゃぶり、今日快晴。こうして不思議なパリの夜がまた更けていった。

2003年6月 田中 玉実

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日 みお●

<展覧会>

会期: 2004年4月3日(土)~11日(日)

場所: ギャラリーART G (高崎市新後閑町10-23) tel.027-328-1041

会期: 2004年5月21日(金)~28日(金)

場所: 由美画廊 (浜松市大工町303-15) tel.053-455-0004 fax.053-455-3984

●大下 百華●

<大下 百華 木版画展>

会期: 2004年5月25日(火)~6月6日(日)

場所: 平安画廊 (京都市中京区寺町三条上ル) tel.075-231-0694

●角間 貴生●

<角間 貴生 版画個展>

会期: 2004年8月2日(月)~8日(日)

場所: ギャラリー風(1・2F) (福岡市中央区天神2-8-136 新天町北通り)

tel.092-711-1140 fax.092-741-8822

木版画と銅版画の新作を中心に、1Fは小品2Fは大きな作品を展示します。

連絡先: tel/fax.092-565-8682 (夢らいふ工房・角間)

●敷地 光子●

<展覧会>

会期: 2004年6月8日(火)~19日(土) 月曜休館

場所: ギャラリー 八十川 (神戸市東灘区住吉本町1-6-8) tel.078-845-9366

●田中 玉実●

<展覧会>

会期: 2004年11月1日(月)~7日(日)

場所: ギャラリーおいし 3階にて (福岡市中央区天神2-9-212) tel.092-721-6013

<出版>

E-book「知ってはならないパリ」(エッセイ、田中玉実・田中一彦共著)は、文芸社の電子出版サイト <http://www.boon-gate.com> にて販売中

●平木 美鶴●

<平木 美鶴展 (木版画、絵画)>

会期: 2004年6月12日(土)~27日(日)

場所: 美術館松櫻堂 (愛知県豊田市若林東町東山13) tel.0565-52-3150

編集後記

今回の会報は、原稿依頼をさせて頂いた方々がとてもみっちりと濃い内容の原稿を書いて下さったので、非常に読みごたえのあるものになったと思います。

作品を通して世界が広がりつながっていくことは、とても素晴らしい、そして平和的なことだなあと編集しながら思いました。

